



No.63 大阪市立総合医療センター 医療安全管理部 保健副主幹 医療安全管理者 加島美也 様



【病院外観】



【医療安全管理部の皆様】

前列向かって左側が加島様

#### ■病院の沿革と概要

平成5年12月に市民の医療ニーズの高度化・多様化に対応するために5つの市民病院を再編し、大規模・高機能の病院として設立された。現在9の臓器別センターと57の診療科を擁し、大阪市の中核病院として、急性期医療および小児医療を提供している。

病床数 1063床 日本医療機能評価機構認定病院（3rdG: Ver1.0）

#### ■病院理念・基本方針

##### 病院理念

1. 広く市民に信頼され、地域に貢献する公立病院をめざす。
2. 人間味あふれる暖かな医療を実践する病院をめざす。
3. 高度な専門医療を提供し、優れた医療人を育成する病院をめざす。

##### 病院の基本方針

- ・患者さんの健康に生きる権利と人間としての尊厳が尊重されるよう配慮とともに良質な医療を平等に提供する。
- ・大阪市の中核病院として地域医療機関との適切な役割分担のもとに連携を強化し、市民の“健康と生命を守る最後の拠り所”として必要な医療を提供する。
- ・医療安全対策への取り組みや個人情報の保護など安心して医療を受けられる環境を整備する。
- ・感染症医療、救急医療、災害医療、小児・周産期医療、精神医療などの政策医療ならびに臓器・疾患別の専門医療を提供する。
- ・最新の医療機器を導入するとともに臨床に直結する研究を行い、その成果を医療現場に還元することで医療水準の向上を図る。

- ・医療従事者のスキルを向上させる仕組み、キャリアアップの仕組みを実践することで専門的な知識や高度な先端技術を備えた医療人を育成する。
- ・健全な経営基盤を確保し、継続して良質な医療を提供できる体制を整備する。

## 1. 組織体制と医療安全管理者の業務について

### 一 医療安全に関する組織体制についてお聞かせ下さい。

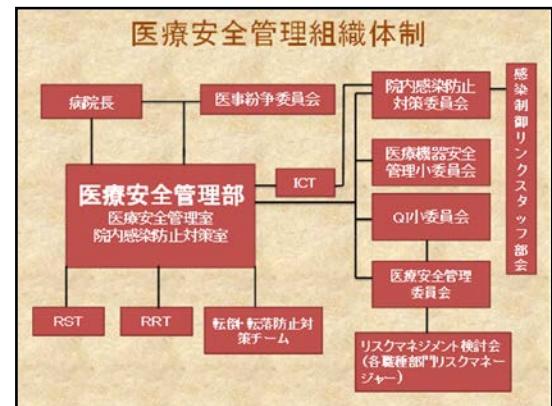
当院では、医療安全に関する専門部署として、病院長直下に「医療安全管理部」を設置しています。

「医療安全管理部」には、「医療安全管理室」と「院内感染対策室」があり、RST（呼吸サポートチーム）、RRT（院内急変対応チーム）、転倒・転落防止対策チーム、ICT の 4 つのチームを持っています。

他に、「医療安全管理部」と連携する組織としては、医事紛争委員会、院内感染防止対策委員会、医療機器安全管理小委員会、QI 小委員会、医療安全管理委員会があります。

医事紛争委員会は、医療訴訟など重大な問題が発生した場合のみ、院長の命令で開きます。

【大阪市立総合医療センター様の医療安全管理組織体制】



### 一 医療安全管理者としての加島様の主な業務内容をお聞かせください。

私が所属する医療安全管理室の役割は、①医療事故の予防、②医療事故への対応、③医療の質の向上です。私の役割もその 3 つに沿っており、インシデントレポートのチェックと分析、事故発生時の対応、研修会の企画や安全情報の発信などを行っています。特に「医療事故の予防」に対しては、活動の柱として重点的に取り組んでいます。

### 一大規模病院様（1063 床）ならではの課題や悩みはありますか？

職員の数が、常勤・非常勤を合わせると 1900 名弱居るので、情報が隅々まで伝わりにくい、または伝わるのに時間がかかるという点は、課題だと考えています。私も伝える側の一員として、工夫や努力をして行きたいと思います。

### 【ニュースレター すってんころりんにゅーす】



転倒・転落防止対策チームで作成されている、ニュースレター今年度第 1 号です。

テクノスジャパンも参加させていただいた「離床センサーワークショップ」や弊社の離床センサーの無料お試しサービスをご案内いただきました！！

## 2. 転倒・転落事例の収集と対策について

### —転倒・転落事例情報はどのように収集されていますか？

事例が発生した場合、まず当該者が電子カルテ上でインシデントレポートを報告します。同時に所属の師長が医療安全管理部へ報告にきます。内容によっては、現場を訪問し、現場で開かれるカンファレンスに参加します。院内のインシデント全体の報告件数は、1ヶ月に300~400件、年間で約5000件になります。

### —近年の転倒・転落事例発生件数はどのように推移していますか？またその原因はどのようにお考えですか？

昨年度のインシデントレポート報告件数約5,000件の内、転倒・転落は543件（約11%）でした。

ここ数年では、徐々に増加していますが、患者さんの高齢化が一番の原因ではないかと考えています。その他にも、当院は高度医療が必要な重篤な患者さんが多いので、そういう事も増加の一因になっていると思います。

### —その他、転倒・転落事故防止のために特にされている活動はございますか？

当院の転倒・転落防止対策は、アセスメントスコアシート評価の結果、危険度Ⅰ～Ⅲ別に対策をしていましたが、それだけでは不十分とわかり、患者の要因別（運動機能面・認知面・排泄）に、理学療法士・リエゾンチーム・排尿機能指導士が介入するシステムを構築しました。また転倒・転落防止対策チーム員が、各病棟の転倒・転落対策検討会のメンバーとともに毎月、転倒・転落ラウンドを行っています。

さらにアセスメントスコアシートを実効力があるものに作り変えようと準備を進めています。

## 3. 医療安全に関する研修および他院との連携について

### —医療安全に関する研修はどれ位実施されていますか？

院内研修は様々な目的、内容で年間50回以上実施しています。その中で医療安全および転倒・転落に関する内容は、全職員対象のものと新人研修に組み込んでいます。研修のテーマは、医療訴訟やマニュアルの運用方法など目的や対象者に応じて医療安全管理室で企画しています。

### —地域の医療機関とは医療安全に関してどのような連携をされていますか？

大阪府看護協会の市北支部を通じて多数の医療機関と定期的に交流会を行っています。また、大阪市民病院機構には、当院以外に十三市民病院と住吉市民病院がありますので、3病院合同で研修会を実施するなどの連携をしています。

## 4. 離床センサーについて

### —現在何台位の離床センサーを導入されていますか？

現在、古い物も含めると全部で134台の離床センサーを導入しています。その内、半数以上の73台はクリップタイプで、他にも床敷きタイプ、赤外線タイプ、離棟を防止するタイプなど持っています。

### —導入機種はどのようなポイントで選定されましたか？

転倒・転落につながるいろいろな場面を想定して選んでいます。テクノスジャパンさんのコードレスタイプについては、コードがないので安全性が高く、設置が簡単で使いやすいと現場のスタッフの評価もとても良かったので導入しました。

### —いつ・誰に・どのタイプを使用するなどの適用基準はありますか？

沢山の種類のセンサーを有効に活用するため、現場のスタッフが、経験やセンスによらず必要な場合に最適な物を選べるような使用基準の作成を現在進めています。文字だけでは見づらいのでフローチャートのような形を考えています。

### —現在、離床センサーの必要台数は充足されていますか？

病床数に対し約13%の離床センサーを持っていますが、それぞれのセンサーは病棟ごとに運用しているため、過不足が発生する事もあります。そういう場合に備えて電子カルテ上で病棟ごとのセンサー保有状況が確認できるようにしています。病棟間でセンサーを融通し合えるような体制を採っています。

## **5. メーカーへのご要望について**

テクノスジャパンさんは、ワークショップや現場への訪問なども対応してもらえるので、本当に助かっています！  
メーカーさんの知識やノウハウを伝えてもらえる事は、医療安全管理者としても現場としてもとてもありがとうございます。  
「テクノス通信」も毎月読ませてもらっており、ニュースレターを作成する際の参考にしています。  
これからも様々な病院の取り組みを教えて欲しいです。

## **6. 最後に一言お願いいたします！**

大規模病院の医療安全管理者として心がけているのは、現場との協力により医療安全の質向上を実現する事です。これからも現場に即した安全対策を考え続けていきたいと思います。

テクノス通信 vol.65(2014年10月発行)より